

補説——北白川小学校の版画教育

佐藤 守弘

（同志社大学文学部）

私が『学校で地域を紡ぐ』に執筆した論考は、「綴ることと彫ること——『北白川こども風土記』の視覚」（333-345ページ）と題したものであった。そこでは『北白川こども風土記』に掲載されたイメージ群を考察の対象とし、なかでも凸版で彫られ摺られた版画を中心に、小中学校での版画教育の歴史や、先行する『山びこ学校』や『夜明けの子ら』と比較した上で、『北白川こども風土記』に掲載されたイメージの特性を抽出しようと試みた。

凸版の版画以外にも、『北白川こども風土記』にはさまざまな種類のイメージが掲載されている。それは、写真や複製図版、図解や挿絵であるが、その他に、その正体が分からずに、この研究を始めたころから私を悩ましてきた一群のイメージがあった。児童が制作した版画であることは間違いないのだが、その技法がどうも分からなかったのである。

それらは、明らかに凸版画とは異なる印象を与える。まず細い線が黒く表されていることから、凹版画——彫られた部分にインクを詰めて紙に写し取る技法——であるのではないかと推測した。とはいえ、危険な刃物や薬剤を使う凹版の銅版画——エッチングやドライポイントなど——を小学生にさせることは考えにくい。もう一つの特徴として、版画の白い部分にフロッタージュのような独特の物質感が見られることである。そのことから、児童向けの版画入門書に「白く表現す

るところに、ニードルで線や点をつけたり、紙やすりやガラスの破片などでこすって、調子をつけて、表現を深め¹⁾」ることができる」と記載されていた板紙凹版画なのではないかと推定した。しかし、そこに載せられた作例を見る限り、どうも違う。結局、その正体を明らかにすることを諦めて、原稿を提出した。

ところが書籍が発行されて1ヶ月弱の2020年7月23日、思わぬEメールが飛び込んできた。T氏という『北白川こども風土記』の版画制作を担当し、北白川小学校を1961（昭和36）年に卒業された方からの便りで、拙論をお読みいただいたのメッセージであった。その方との交信で、謎の版画の作成法や制作状況に至るまでの相当詳しい事実が判明したので、ここにそれを報告したいと思う。

まずT氏は、『北白川こども風土記』を執筆された学年の卒業が1959年であるから2年下の学年にあたる（下の学年もイメージ制作を担当したことは執筆者の証言からすでに分かっていた）。氏が3、4年生の時の担任が57年に富有小学校²⁾から転任してきた美術教諭の西田秀雄で、そのクラスで版画作成にあたったのという。

拙論でも述べたように、西田秀雄（1913-1992）は、小学校教諭として勤めながら、美学者、井島勉（1908-1978）に師事し、井島が初代会長を務めた日本美術教育学会の学会誌『美術教育』に論文を多数投稿するなど、独



図1 西田秀雄と『北白川こども風土記』を手にしたT氏ら北白川小学校の児童たち。
大文字山を背景に北白川小学校の屋上にて、1959年ごろ

自の美術教育論を打ち立てた人物である³⁾。北白川小学校赴任の時期が『北白川こども風土記』の制作～発刊と重なることや、イメージの一部は下級生が制作したという執筆者たちの証言があったことから、西田の関与の可能性は大きかったが、拙論執筆の段階では確証は得られなかった。このことが今回、まず明らかになった大きな事実である。

西田の教育は、専門の図画工作だけでなく、詩や他の教科の指導法もユニークで、児童はすっかり彼のとりこになったという [図1]。クラスのなかからは、図画工作の全国的な表彰を受けた者もいたようだ。

版画の制作過程については、T氏が自身の絵日記を残しておられて、そこにきわめて詳しく記録されている [図2]——小学校4年生とは思えない美しい字で！

提供していただいた10月13日の絵日記によると、まずT氏は3人組で大文字山を写生する。終わって教室に帰ると、まだ他の児童は描いている途中なので、〔終わるまで〕学

校の門を写生しなさいと言われた。続いて版に下絵を写すことになる。絵日記から引用したい (適宜、読点を補った)。

白いざらざらした版に書き上げのホヤホヤの門を写しました。〔中略〕形をとり終わると、先生のお話を聞いてほりはじめました。するすると面白いようにほれて行き、前の方に砂の様な粉がたまりました。ゴム版や木版よりこの方がいいと思いました。字なんか反対にしないでどうして出来るのかなと思ひ不思議でなりません。階だんや窓、うすい所やこい所を付けました。ほっただけでははつきりしません。〔中略〕

先生は私を見てよろめいているようなほり方をおしえてくださったので、石だたみなんかをぐちゃぐちゃにしました。いろいろな調子にしました。くぎ、切り出し、ドライバー、四角い彫刻刀でやりました。

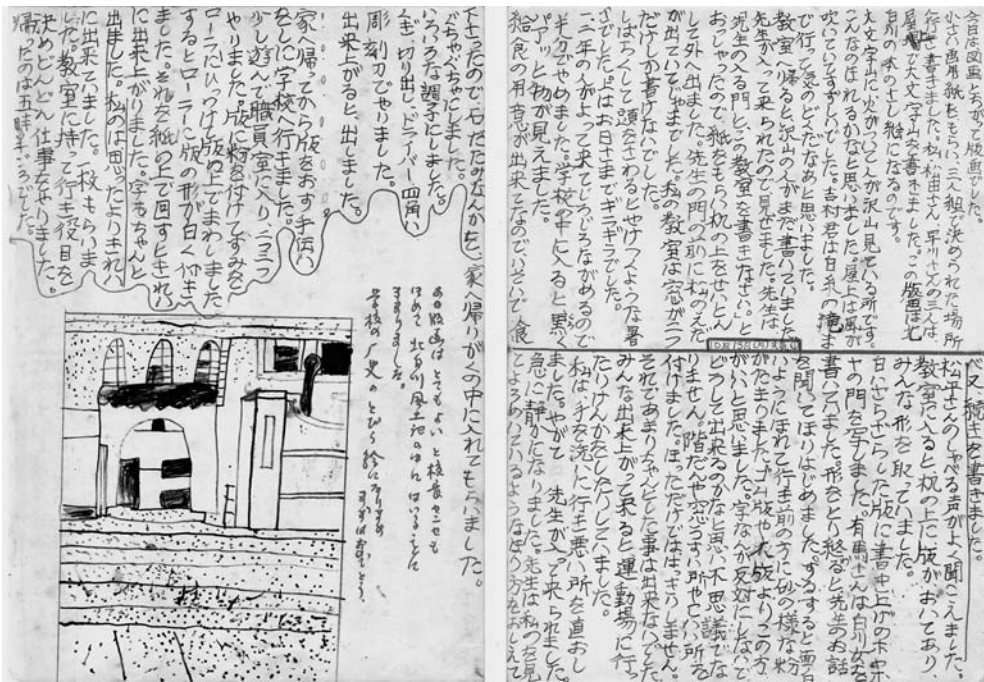


図2 T氏の絵日記, 1959年10月13日(月) 付

版の制作のポイントをまとめると、版自体は白くざらざらしていること、木版やゴム版より彫りやすいこと、彫刻刀だけでなく、いろいろな道具で調子をつけることができることが挙げられよう。なお「ゴム版」という言及からは、これも拙論で推測したように凸版画の版がリノリウムではなかったものの、ゴムという柔らかい物質であったことも分かった⁴⁾。

続いては、摺りの工程である。

版に粉を付けてすみをローラーにひっつけて版の上でまわしました。するとローラーに版の形が白く付きました。それを紙の上で回すときれいに出来上がりました。字もちゃんと出ました。

まとめると、版（おそらく石膏版）に粉を付けた上で墨を付けたローラーに転写する。これで掘った部分の粉はローラーに付着せず、

彫らなかつた部分の粉が付着するのだろう。するとローラーの表面には、版がネガの状態です転写されることとなる。それを紙に転写することで、彫ったままの状態の——字も絵も反転しない——イメージができあがることとなる。謄写版を専門とする版画家の神崎智子氏⁵⁾に尋ねたところ、技法の名称は分からないものの、オフセット印刷⁶⁾と似た原理だろうとの回答が得られた。すなわち凹版ではなく平版であったのだ。これでついに謎が解けた。

T氏によると、『北白川子ども風土記』に掲載されたイメージのうち、「表紙」、「扉絵」、「章扉」、「カット」がT氏の学年によるもので、すなわち2学年上の執筆の後、それを書籍にする過程で制作されたようである〔図3〕。一方、「本文挿絵及び版画」は執筆した上級生によるものであったという。T氏によると、西田は「じょうず」や「きれい」を良しとしなかったようだが、上級生の版画は、完

カ ット 版 画	本 文 挿 絵	章 扉 版 画	扉 絵 版 画	表 紙 版 画
北川由美子・村上 善明	藤川 慎一・長藤 紀子 松平 洋子・安藤 恵子 井口美代子・藤田 倫子	今井 一代・田尻 泰子 三宅 純典・仁志出保子 竹崎 陽子・有馬 康子	大久保 進 中山 邦憲・西田 誠	吉村 亨士・仁志出保子 宮崎 明・大久保 進
	村田 裕・亀田 進 近藤 勝重・平井 陽	早川 芳江・降矢 芳久		

図3 イメージ制作を担当した児童たち一覧。
『北白川こども風土記』12ページ

成度の高い写実的な傾向が見られることから、「毎晩のように、学校近くの〇〔大山〕先生の家に通っては、その腕をふる」（『北白川こども風土記』370ページ）ったのは、執筆者たち自身であったらうとのことである。

絵日記に残る西田のものと思われるコメントに「あの版画はとてもよいと校長センセもほめて北白川風土記の中にはいることにきました。学校の歴史の扉絵になります」とある。その横に描かれたような素描が、版画〔図4〕になり、それが最終的には第七章「郷土の発展」（279ページ）に採用されることとなったのである〔図5〕。

以上が、T氏からの証言や資料を得て、分かった新事実である。拙論を執筆しているときに、これらの事実が分かっていたらとほぞを囁む思いも確かにあったが、「本を出したからこそ明らかになることもある」と共編者の菊地暁に慰められて、気持ちが落ち着いた。『学校で地域を紡ぐ』は、書籍を発行してすべてが終わったわけではない。発刊記念に行ったオンライン・トークイベント⁷⁾やこの『人文学報』の特集でもさらに膨らんでいっているし、今後もさまざまな手段で研究成果を発信していきたいと考えている。

最後にもう一度、貴重な資料を提供してい

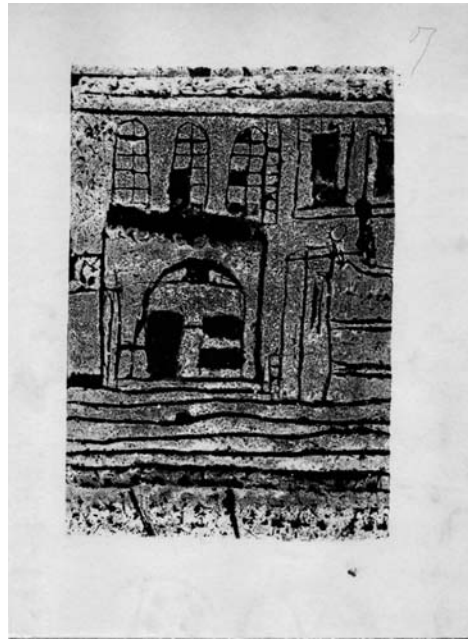


図4 T氏制作の版画。北白川小学校の出入口。章を示す「7」の文字が鉛筆書きで見える

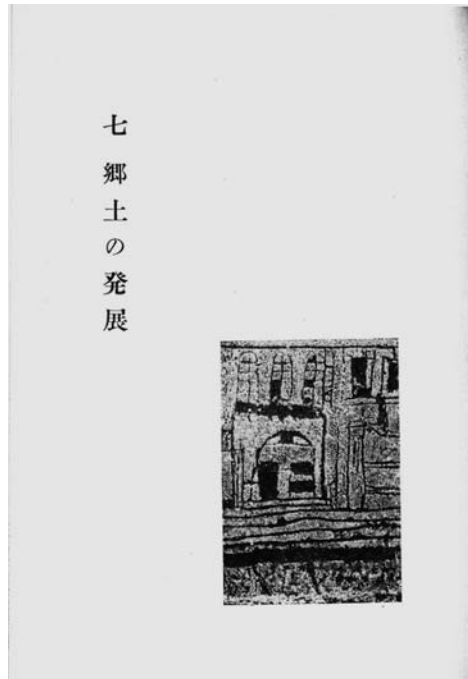


図5 『北白川こども風土記』七章扉, 279ページ

ただき、それを公開することをお許しいただいた T 氏に感謝の意を表して、筆を措きたい。

註

- 1) 大田編『やさしい版画教室』ほるぷ出版, 1984年, 28頁。
- 2) 1993年に竹間小学校と統合され, 富有竹間小学校に, 95年には他の3小学校と統合され御所南小学校となる。御所南小学校は富有小学校の校地を受け継いだものである。
- 3) 西田秀雄の著書には, 『児童画指導の技術』(創元社, 1958; 改題増補版『よい絵の描かせ方 —— 児童画指導の技術』創元社, 1962) などがある。
- 4) 「[小中学校で制作する凸版は] 通常は, 木を縦に挽いた板に彫る板目木版が使われるが, 当時, 『北白川こども風土記』に参加した方
- 5) 著書に『10-48 謄写版のこれまで・これから』(10-48, 2020年)。作品はウェブサイト「print.pepper.jp」(<http://print.pepper.jp/>, 2021年3月30日アクセス)で見られる。
- 6) オフセット印刷とは, 水と油が反発する原理で版に付けたインクを転写ローラーに写した後, ローラーから紙に転写する印刷技法。
- 7) 小さ子社 YouTube チャンネルでアーカイヴ配信中 (2021年3月現在)。ウェブページ「発刊記念 オンライン・トークイベント『学校で地域を紡ぐ ——『北白川こども風土記』から ——』」(<https://www.chiisago.jp/kkf/>) 参照。